

新たな飼料用米需要拡大に期待される 食中毒菌感染を抑制する飼料用米給与

3 月 22 日に飼料用米生産利用推進研究会が開催され、飼料用米栽培農家や畜産農家等 40 名が出席しました。

今年度の府内飼料用米生産面積は、140ha と昨年度より 10ha 増え、主に採卵鶏や乳用牛、肉用牛で利用されていますが、出席者からは、畜産農家の利用が増えなければ、今後の飼料用米生産拡大はなかなか難しいとの意見が出ていました。

当センターの研究により、粳米を 60% 給与することで、食中毒菌感染を防げることが判明しており、平成 30 年度には府内の肉用鶏農場で実証試験に取り組むことを報告したところ、出席者から肉用鶏農家からの新たな飼料用米需要の拡大に大きな期待が寄せられました。



講演の様子